



公民館講座紹介（英会話愛好会）

講座紹介シリーズの第2回は、8月6日（水）に開催された英会話愛好会の様子を紹介します。講師の2人は、共に役場企画観光課に在籍の中山 友美さんと浅野 哲史さんです。以前、アメリカの大学に留学やオーストラリアで暮らしていた経験があり、英語堪能です。

取材した日の参加者は、4人でしたが、通常10人程度のお出でがあるそうです。この日は、英語での自己紹介が課題で、一人一人が、出身地・趣味・プロ野球の応援チーム・好きな色等を一言一言、講師の2人にアドバイスをもらいながら丁寧に発言していました。その後、過去形の練習等を行いました。終始、楽しそうに英会話を学んでいました。

みなさんもお参加よろしくお願いします。

Let's Enjoy English.



学芸員の大和村 あまくま訪ね歩き



奄美大島の河川とダム

大和村に暮らすようになり、あらためて気になりました。いくつかありました。そのひとつは、大和村はこんなに山が深いのに、なぜ奄美市住用町の住用川、川内川のような大きな河川がないのかということです。

その疑問について考えるため、奄美大島の地形図を毎日のように眺めて過ごしていました。ある時、奄美大島を縦走する中央山脈の尾根筋を地図に記入してみたのです。そうすると、そこには不思議な地形の姿が現れてきたのです。

地図に記入されている太い赤線が奄美大島の中央山脈です。その位置に注目してみましょう。中央山脈は、名瀬のところで大きく屈曲して、知名瀬集落、根瀬部集落、さらには大和村の浦内地区5集落側に寄り始めます。そして、荒波地区でまた大きく屈曲して、戸円集落、名音集落の背後に迫るくらい西海岸に大きく迫り出してくるのです。

そして、山地の主要な尾根筋まで記入してみると、河川の分水嶺（河川が流れていく方向の境目となる場所）が現れてきます。

奄美大島の南半部分は、名瀬の大川、住用町の川内川、住用川、役勝川、宇検村の河内川のこれら5河川の分水嶺でおおよそ占められていることがわかります。

谷地形の規模を比較してみると、大和村の河川は、中央山脈が海岸まで迫り出しているため、谷の距離が総じて短いのです。それに対して、住用町の河川は、谷の距離がとても長いのです。そのため、枝のように分かれて繋がる無数の支流から集まる水量がとても多くなり、大きな河川になっているのです。

住用町を貫流する住用川と川内川の源流は、大和村にあります。住用川の源流は、福元地域（図点線部分）の小川岳中腹からはじまるのですが、奄美大島第2位の標高528.5mを誇る雄峰です。戸円集落の背後にあるタカモリ山と呼ばれている山が小川岳です。こんなところから住用川の源流がはじまるなんて、大和村の地形に驚いてしまいます。

